



2019・1・21

第 328 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

手をゆるめず通常国会でも改憲発議阻止を

「防衛計画の大綱」を学習

1月17日、九条の会事務局主催学習会「新防衛計画大綱と憲法第9条」を東京・文京区民センターで開催し、昨年末に閣議決定された新「防衛計画の大綱」による安倍政権の大軍拡の危険を学びあい、9条改憲阻止の決意を固め合いました。

大内要三さん（日本ジャーナリスト会議会員）は、『防衛計画の大綱』改定の現実とは」と題して講演し、2015年の日米ガイドラインと戦争法の具体化である「大綱」の危険な中身を丁寧に説明しながら、これらによって自衛隊は敵基地攻撃能力をもち、米軍と共に戦う態勢を整える、この自衛隊を憲法で認知してよいのか、憲法9条は自衛隊のこうした軍隊化を阻んできたと強調しました。

続いて、高田健さん（九条の会事務局員）が、「安倍改憲とのたたかい」と題して報告し、昨年末から今年頭までの安倍首相の改憲発言などを紹介しつつ、参院選挙前の改憲発議は安倍官邸にとって容易ではない課題だが、この状況を作り出してきたのは、私たち九条の会や市民アクションや総がが

り行動などの市民運動と国会内の野党の共同との連携だ、闘いなくして改憲発議は阻止できないし、闘えば発議を阻止できると訴えました。

当日は、群馬や静岡などから駆けつけた方も含めて100名余が参加して、報告に熱心に耳を傾けていました。

13町の9条署名訪問を完了

【前橋市桂萱地区／かがや9条の会】

11月27日の署名行動で2008年5月から始めた「9条署名」の桂萱地域全戸訪問が完了しました。昨年11月から全国で「安倍改憲を許すな」と取り組んでいる「3000万人署名」に切り替えて丁度1年です。桂萱地区文化祭で知り合った団体役員の方に署名をお願いしたところ署名行動日の前日に25筆が届けられ、参加者はとても励まされました。当日の署名15筆と合わせ、かがや9条の会の署名到達は1471筆となりました。

当初、3000万署名の目標は「2000万署名の5割増し」と800筆に決めました。しかし署名交流会などで3000万人署名の理解を深め、署名は人口の4分の1をめざ

している事を確認し、事務局会議では新目標を決め、地域訪問行動の最終盤には月3回に挑戦するなど取り組みを強めて全戸訪問をやり遂げました。

この間、個人の結び付き先での署名行動は870筆です。2008年5月から2018年11月までの署名行動は120回、行動参加者は606人で1回の行動参加者は平均5名でした。この間、病で倒れた方や現在治療中の方、仕事の合間を縫って署名に参加する方、様々なサークル・団体に関わっている方など…かいがや9条の会の役員を中心に会員も加わって合計17名の方が署名行動に参加しています。10年半の署名行動には感慨深いものがあります。昨年の夏、5名が団地を約1時間訪問して4筆だった事もありました。

しかし、「3000万人署名」は終了ではありません。安倍9条改憲を阻止するため、全国で3000万人をめざし行動しています。「3000万署名」は人口の4分の1を目標にしています。

桂萱地域の人口は2万8800人で、1/4は7200筆となります。かいがや9条の会は2月25日の「安倍9条改憲NO 群馬県民アクション」キックオフ集会で、「この間積み上げた「9条署名」も合わせ、少なくとも5割3600筆をめざしたい」と表明しました。

「9条署名」は既に1771筆提出し「3000万人署名」は11月末で1471筆ですから、桂萱地域全体で3242筆に到達しています。当面、3600筆に到達させるため、358筆獲得の努力を続けたいと思います。皆さまのご協力を引き続きお願いします。

(「かいがや9条の会だより」no139)

新年の決意込め出足早く街頭へ

【岐阜県／岐阜九条の会】 岐阜九条の会は9日、名鉄岐阜駅前で215回目の「9の日」行動に取り組み、安倍9条改憲ノー3000万人署名を呼びかけました。

世話人の林邦男さんがマイクを握り、「5年間で27兆円を超える軍事費を投入し、空前の軍事大国化をねらう安倍政権を許してはなりません。戦争につながる9条改憲をさせないために、3000万人署名にご協力ください」と訴えました。

代表世話人の吉田千秋さん、座馬惇子さん、青木真理さんらが、信号待ちの高校生と次々に対話しました。

座馬さんが女子高生2人組に「戦争しない国にしたいという声を集めているけど、あなたはどう思う？」と語りかけると対話がはずみ「戦争はダメですね」とニコリして署名。青木さんも、9条をくわしく知らないという高校生に、「武器をもたない、戦争しないと決めた9条を安倍さんが戦争できる憲法に変えようとしている」と説明すると「よくわかりました」と納得。寒い中で署名があいつぎました。

＜「えびす祭り」の参加者と対話＞

【徳島県／市民アクション】 「安倍9条改憲NO!徳島・市民アクション」は10日、3000万人署名に取り組みました。

「えびす祭り」でにぎわう徳島駅前の元町付近でメンバーらが「憲法9条を守ろう」と呼びかけ、市民が署名に応じました。署名した市内の会社員、湊知子さん(40)は「(民意を無視し)強行採決を繰り返す今の政権に対し、戦争へ向かう可能性を無く

すためにあらがいたい」とのべ、同市で農業を営む男性（59）は「憲法を変えたら軍事優先の社会になる。森友・加計疑惑をのみ消し、原発を動かさず安倍首相を早く辞めさせないといかん」と語りました。

<「いいことしたね」と小6生ら>

【神奈川県海老名市／えびな・九条の会】

「えびな・九条の会」は12日、海老名駅東口自由通路で、今年の「安倍9条改憲NO！3000万人署名・宣伝行動を行いました。7人が参加し、安倍9条改憲の危険性や戦争体験を語り、55人分の署名を集めました。

署名した市内の女子高生（1年生）は、「9条を変える国会議員は戦争に行かないだろうけど、戦争に行くのは私たち。困ります」ときっぱり。

「昨日、社会科の授業で憲法9条について習った」と署名した相模原市の小学6年生の女の子4人組は、「いいことしたね」と話していました。

17年12月から始めた署名は、19年1月12日現在、合計2838人分に到達しました。

成人式の参加者と対話

【岐阜羽島市／はしま九条の会】 はしま九条の会は13日、成人式会場前で「安倍9条改憲NO！3000万人署名」を呼びかけ、新成人と対話しました、

代表世話人の近藤史さん(74)ら11人が、新成人へのお祝いと「戦争しないと約束した大切な憲法を守ろう」と書いたチラシを配布し署名を呼びかけました。

非正規で働く新成人（19）は「土日休みですが安いのもっと上げてほしい。消費税10%は絶対やめてほしい。社会をよくす

<九条の会呼びかけ人>

梅原 猛さん死去

九条の会呼びかけ人の梅原猛さんが12日、肺炎のため死去しました。93歳でした。

梅原さんは日本ペンクラブ会長、国際日本文化研究センター所長などを務め、九条の会には、つぎのようなメッセージを寄せています。

「私は仏教を血肉として生きてきましたが、人を殺してはいけない、生きとし生けるものを殺してはいけないという仏教の不殺生の戒律は、人類を破滅にいたらしめる核戦争を避けるための重要な指針になると思います。この『不殺生の思想』を内包している憲法を大事にしなければならないと考えます」

九条の会呼びかけ人の澤地久枝さんは「仲間を失ったことは非常に残念です。当初九人いた会の呼び掛け人は、大江健三郎さんと私の2人だけになってしまいましたが全国に何千という九条の会がつくられ、志は受け継がれていると思います」と語っています（「東京新聞」1月15日）

るために自分にできることがあれば何かしてみたい」と語ります。アルバイトをしながら大学に通う女性（20）は「安倍政治の改ざんや隠ぺい、沖縄辺野古への土砂投入は絶対に許せない。憲法9条は変えてほしくない。社会のしくみを知りたいし、学びたい。野党が共闘する動きを注目している」

と話しました。

自民党を支持する大学生（19）は、「安倍政権の外国人入管法の強行やカジノ解禁だけは絶対におかしい」と批判しました。

＜空から連凧新成人に訴え＞

【長野県岡谷市／諏訪九条の輪】 岡谷市の諏訪湖畔の公園で14日、「九条凧（たこ）揚げ」がありました。約30人が参加。主催は諏訪地域6市町村の9条の会などで行く「諏訪九条の輪」です。

穏やかな快晴の青空。「塩嶺おろし」の風に、1文字ずつメッセージを書いた10本の連凧があがりました。それぞれ「平和の力 憲法9条かえさせないぞ」「平和憲法9条を子や孫まで残そう」などのメッセージ。

参加した小学生は「平和が一番。世界から戦争がなくなるように」と語ります。「戦争はいやだ、平和を守ろう会」の宮坂良夫さんは「9条を守っていくために、今年は正念場」と語りました。

＜70センチ超の大雪のなかで＞

【青森市／9条を守る茶屋町の会】 積雪70センチを超える大雪の中で、9条を守る茶屋町の会は新年の街頭宣伝をしました。

角倉昇会長は「昨年改憲ノ一の3000万人署名の街頭集会に参加する取り組みと野党共闘の取り組みによって、安倍自民党は国会で発議することも改憲内容を提示することもできなかった。今年は改憲をあきらめさせるほどのたたかいを進めてゆこう」と力強く訴えたい

厳しい寒さの中6人が色とりどりの旗をかかげて参加しました。車の中から手をふる人や新年のあいさつをしてゆく通行人など、声援を送る人たちがいました、

地域科学部廃止をテーマに

【岐阜大学／憲法サロン】 岐阜大学の地域科学部「廃止」計画が突然報道されたことから、岐阜・九条の会が6日、岐阜市で地域科学部の富樫幸一学部長を招き、サロン9条の例会を開きました。地域科学部元教授や卒業生も含め25人が参加し、学部改組の問題点など意見交換しました。

富樫氏は、全国に先駆けて創設された地域科学部の22年間の教育・研究・地域連携の流れを報告。卒業生から「徹底した少人数教育でわかりやすかった」「学生と先生の距離が近く学ぶ意欲が高まった」など高い評価が寄せられていることを紹介し、卒業生が地域社会の重要な担い手として育っていると指摘しました。地域科学部を廃止して「経営学邱」（仮称）を新設する構想には、教職員・学生・卒業生の多くから反対の声があがっており、「環境、福祉、まちづくりなど持続可能な地域社会をつくるうえで求められているのは地域科学部しかないことを提案していきたい」と強調しました。

参加者から「母親大会で地域科学部の先生が助言者として参加してもらい大変感謝している」「教員や学生の声も聞かずに上から決めるやり方はおかしい。大学の自治を再構築してほしい」などの意見が出されました。

地域科学部の学部長を経験した吉田千秋さん（岐阜・九条の会代表世話人）は、「経営学部への『改組』ありきではなく、『人を育てる』事業がさらに発展する議論を心から願っている」と語りました。